



令和7年度施政方針を問う ～弥生会議 一般質問より～

2025年問題

2025年(令和7年)は、団塊の世代がすべて後期高齢者となり、5人に1人が75歳以上となる年です。そして2040年には高齢者人口の割合がピークを迎え、かつてない超高齢社会となります。このような中で、丹波篠山市で暮らすひとり一人が尊重され、ゆるやかにつながりつづける社会的包摂、地域共生のまちづくりを施政のまんなかにするべきと考えます。

ワクワク農村未来プラン

集落がかかえる少子高齢化や担い手不足などの課題を解決につなげるために市では「ワクワク農村未来プラン」を作り、ワクワク農村創生補助金制度(自治会あたり10万円を補助)による事業を行っています。令和5年、6年度には72自治会(2月17日現在)が多世代の交流活動などを行っています。私は、地域の子ども、高齢者、障がいを持つ人、外国人住民、移住者等々、多様な人たちがつながり、支えあえる場づくりが必要だと考えます。

市民が主役のまちづくり

丹波篠山市自治基本条例では「参画と協働のまち」市民が主役、市民が主体でつくるまちづくりを推進しています。丹波篠山市民プラザは開設15年を迎え、169団体が登録し活動しています。子育て支援など、課題解決のために取り組んでいる活動もあり、継続のための支援が必要です。市民や市民団体を育てるための施策を議論していきます。

デマンドバス「のるーと」

令和6年11月より、デマンドバス「のるーと」が市内東部地区3エリアで運行しています。現在の登録者数は409人、1日あたりの平均利用者数は9.5人です。今後、より市民の暮らしを支える移動手段となるために、登録や利用を推進することが必要です。また、西部地域へのデマンドバスの運行は、令和7年秋以降に行う計画です。

特別支援教育

近年、特別支援教育を受ける児童生徒が増えています。少子化により、小中学校に通学する児童生徒数は減っていますが、篠山養護学校や特別支援学級の必要性は高まっています。

今後、よりひとり一人のニーズに寄りそった支援が必要です。個別支援が必要な児童生徒もあり、児童生徒数の推移を注視しながら、教育環境の整備について議論を続けていきます。

防災について

原子力災害に備え、平成27年より安定ヨウ素剤の事前配布を行っており、10年を迎えます。多発する災害に備え、原子力防災への対策を丹波篠山市地域防災計画で明確にし、市民に啓発を続けることが必要です。

火災が多発しており、建物火災も多く、被災者への総合的な相談支援が必要です。また、被災世帯に寄り添い、特に子どもがいる世帯には通学区などの配慮が必要だと考えます。

*一般質問では、皆さまから頂いた声を調査研究し政策提言につなげています

一般質問の録画が視聴できます。→



地域での催し等に出席しました

・食育推進大会	・丹波の森 新春書き初め展
・世界平和アピール七人委員会講演会	・三宅剣龍賞みどり賞表彰式
・SDGs地域ミーティング	・丹波篠山研究会
・教職員組合総会	・ABCマラソンボランティア
・日置地区人権・同和教育研究大会	・里山づくりフォーラム
・旧雲部小の今後のあり方を考えるワークショップ	
・村雲千客万来祭	・篠山養護学校、城東小学校卒業式
・文化協会研修会	・みずほの家10周年記念式典

*この他にも地域や団体に出向き、皆さまのご要望、ご意見等をお伺いしています。

*ぜひ、小さな集まりにお声かけ頂き、皆さまの思いをお聞かせください。

#向井ちひろ #向井ちひろと千の声 SNSで日々の活動を発信しています。



向井ちひろ (丹波篠山市議会議員 副議長 会派「福祉と教育」)



千の声 No.39

2025年4月発行(偶数月第1土曜発行)

向井ちひろと千の声

丹波篠山市宮ノ前315番地3

☎ 079-555-2625

携帯 090-7550-7596

HP mukaichihiro.org

メール info@mukaichihiro.org